

令和6年度（2024年度）第1回宝塚市男女共同参画推進審議会 会議概要

1 日 時 令和6年（2024年）7月26日（金） 午前10時～12時

2 場 所 宝塚市役所 3C会議室（zoom会議）

3 出席者

（1）出席委員 委員10名中9名出席

大束委員 大野委員 澤田委員 塩川委員 杉山委員
中村委員 西中委員 濱田委員 開本委員

（2）事務局

吉岡次長、山下課長、池澤係長

（3）その他

指定管理者 山田所長

4 全体進行

- ・会議の成立について（委員の過半数が出席）
- ・傍聴者について（傍聴希望者なし）

5 審議事項等

- （1）宝塚市における女性の公職参画状況（令和6年（2024年）4月1日現在）について
- （2）第2次宝塚市男女共同参画プラン推進状況について
- （3）第3次宝塚市男女共同参画プランに係る市民意識調査（素案）について

6 主な意見等

（1）宝塚市における女性の公職参画状況（令和6年（2024年）4月1日現在）

事務局 <資料に基づいて説明・省略>

委員 市職員の状況について、課長級が少ない。今後の方針はあるのか。

事務局 令和元年度は女性の課長級が多かったが、現在低下している。係長級に昇格するにも障壁がある。家庭との両立なども背景にあると思われる。外部研修を受けてモチベーションの改善に向けて取り組んでいるが、参加者は少ない。管理職が魅力のあるものとしなければならない。

委員 宝塚市は、自治会長など全国より進んでいると思うが、女性の参画率が低い審議会もある。特に防災会議で女性委員が少ない。能登半島地震がある中、これでは、女性の意見が反映されない。ここを高めていくためにどうしたらいいか。

事務局 防災会議における女性の割合は、県下での順位は丹波市が30%、本市は真ん中あたりで女性委員が多い状況ではない。自治会や市議会

では女性が活躍しているが、防災会議に結びつけることはできない。市議会でも、防災分野の女性登用についての質問もあった。防災を担当する総合防災課では少しずつ女性職員配置を進めている。女性の視点で防災を考える市民グループが、本市の補助金を活用し活動を行っている。

委員 自治会に対して防災分野での女性の参画について啓発する余地がある。地域の人たちに防災分野での女性の参画について知ってもらうことができればと思う。

会長 防災会議に部会等の組織を増やす自治体もある。女性が少ない団体では、幼稚園長や保育園長などに入ってもらって、考えていただければと思う。

委員 防災会議では、ジェンダー平等やセクシャルマイノリティの方の意見が反映されにくい。そういった声を反映できるしくみが必要と考える。

会長 そういったことが、緊急時に、セクシャルマイノリティの方や高齢者の方の意見が反映されることにつながる。

時間の都合上、次の議題は「第3次宝塚市男女共同参画プランに係る市民意識調査（素案）について」とする。

（2）第3次宝塚市男女共同参画プランに係る市民意識調査（素案）について

事務局 <資料に基づいて説明・省略>

委員 問6の「ジェンダー問題や男女共同参画がどういうものか学んだり、教えられたことはありますか」の回答の選択肢「学ぶ機会がなかった」と「いいえ」は、どう違うのか。

事務局 回答の選択肢は「はい」「いいえ」とする。

委員 意識調査は、無作為に選んだ結果なのか。

事務局 偏りがないようにしたいと思う。性別と年齢で抽出しようと考えている。

委員 問6の「ジェンダー問題や男女共同参画がどういうものか学んだり、教えられたことはありますか」について、問5「『男は仕事、女は家庭』という考え方について、あなたのご意見にちかいものはどれですか」で、質問しているので、問6の次に「それはどこで学んだのですか」と聞いてもいいのではないか。回答の選択肢については問7の内容で良いと思う。

事務局 問5も問6も、問7のように、どこの影響を受けたのか、考えさせていただく。

委員 回収率に偏りがないか。回答率を上げる方法は考えているのか。

事務局 前回（平成26年（2015年））の回答率は、29.8%であった。女性が6割、男性が4割であった。

回収率を上げるため、設問数を減らしたり、オンラインで回答でき

るようにするなど、誰もが回答しやすい流れで設問項目を作りたいと思っている。

委員 意識調査の結果については公表するのか。公表するのであれば、調査票に市のホームページで公表されることを記載していた方がいいと思う。

事務局 加筆させていただく。

委員 問4の「日常生活における次の項目で、男女の公平感についてあなたの気持ちに最も近いものをお答えください」は、公平より平等がよい。問8「あなたは仕事もしくは、家庭生活において、男女共同参画の視点を持って行っていますか」は、設問としてあった方がよい。この設問をなくしてしまうのはもったいない。「男女共同参画の視点」より「男女共同参画の考え」などはどうか。

会長 問4「日常生活における次の項目で、男女の公平感についてあなたの気持ちに最も近いものをお答えください」は答えにくい。個人的な設問なのか、市の施策としての設問なのかわかりづらい。特に、育児、家事、介護について答えにくい。

事務局 問4は「平等」に修正を検討させていただく。問8も検討させていただく。

会長 問4「日常生活における次の項目で、男女の公平感についてあなたの気持ちに最も近いものをお答えください」は答えにくい。個人的な設問なのか、市の施策としての設問なのかわかりづらい。特に、育児、家事、介護について答えにくい。

委員 問15にある「デートDV予防教室」は、学校からの要望があったら行うのか。

事務局 年2回、校長会などで案内している。関心を持っていただける学校から要望をいただき実施している。

委員 思春期の子どもたちの中には、親に相談しない子どももいる。ぜひ、今後も実施してほしい。

事務局 若年層からデートDVに知ってもらうことが必要と考えている。学校への呼びかけの際、理解いただけるように働きかけたい。

委員 問11「政治・経済・地域などの各分野で女性の参画が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思いますか」で、選択肢の「6）男性のリーダーの方がよい」には違和感がある。

委員 同設問の選択肢「4）女性が、より仕事と家事、育児、介護などの負担を背負うことになる」「5）男性のポストが減り、男性が活躍しづらくなる」「6）男性のリーダーの方がよい」は、ネガティブな意見である。その中でも「6）男性のリーダーの方がよい」は差別的な選択肢で、これでよいのだろうかと思う。

事務局 庁内の会議で、ネガティブな選択肢も入れて選べるようにしてはどうかという意見があり、付け加えた選択肢である。削除を検討したい。

委員 問16「男性が家事、育児、介護等に主体的に参画するためにはどのようなことが必要か」で、必要かどうかの設問がない。「望ましいですか」という設問を加え、考えを回答いただいた上で、必要なことについて回答してもらってはどうか。

事務局 検討させていただく。

委員 「DVを受けていますか」という設問を削除すると説明を受けたが、設問がなければ宝塚市でDVを受けている人数を把握することが出来ない。

事務局 たからづかDV相談室の相談件数、男女共同参画センターの相談件数、女性用トイレ設置しているに生理用品に相談カードを同封していて、相談カードからのホームページアクセス数などで一定把握している。

委員 DVを受けたかどうかの設問はなくて、ハラスメントの設問があるのはおかしい。

事務局 内容もしくは削除について、検討させていただく。

委員 問16「男性が家事、育児、介護等に主体的に参画するためにはどのようなことが必要か」で。選択肢に「女性の正社員を増やす」を入れてほしい。ジェンダーギャップ指数でも、政治と経済の分野が低くなっている。経済での取組として、女性の正社員を入れてほしい。正社員になれば、女性に経済力をつけることができる。

事務局 他の項目の内容も含め、検討させていただく。

事務局 経年で残す項目は残している。国や県で確認できる項目については削除した。

委員 新旧対照表を提出してほしい。

事務局 提出させていただく。

会長 本日の会議での意見を踏まえて、修正した調査票も送付してほしい。

事務局 新旧対照表とご意見を踏まえ修正した調査票を送付し、資料をご確認いただき、8月末までにご意見をいただきたい。

(3) 第2次宝塚市男女共同参画プラン推進状況について

事務局 <資料に基づいて説明・省略>

委員 重点施策の「地域における男女共同参画推進リーダーの育成」について、市民意識調査に設問項目がなかった。周知の意味も含め、入れてはどうか。

事務局 現在、着手もできておらず、講演会や講師派遣について周知を行っている状況である。市民意識調査に項目を入れるに至っていない。

委員 まちづくり協議会や自治会に、地域における男女共同参画の推進を呼びかけるチラシを配布したとあるが、PTAにも配布してほしい。

事務局 PTAについても検討したい。男女共同参画について知ってほしい

と思う。

委員 女性の防災士の方からの提案で、地域の避難所マニュアルから性的マイノリティの方への配慮を外すことになった。

委員 性的マイノリティの方への配慮についてマニュアルから外すというのは、地域の避難所マニュアルを作る場に当事者がいないことから「どうしたらいいのかわからない」という発想になったのでは。防災セミナーでは「“声が小さな人”も取り残さない避難所運営」が実施されている。性的マイノリティの人たちについて防災時にも配慮等が必要だということをセミナーで伝えてほしい。防災会議に女性委員が少ないことにもあるように、声が小さな人が地域防災に参画できるように、どういうことをしていくか考えなければならない。

委員 多様性の社会をめざしているとあるのだから、若い人、障碍のある人、外国の人なども入れなければならない。防災会議のメンバーを変えることができるのであれば、マイノリティことを考える場が必要である。だれでもトイレを始め、トイレのことなども考えていただきたい。

事務局 横断的に課題があるので、次長級はどこの組織の問題も取組んでいる。

〈その他〉

今後の予定について、毎年、審議会は2回開催しているが、今年度は1回増やして開催するかもしれない。来年度は、プラン策定のためもっと審議会開催回数が増えると考えている。ご協力をお願いしたい。